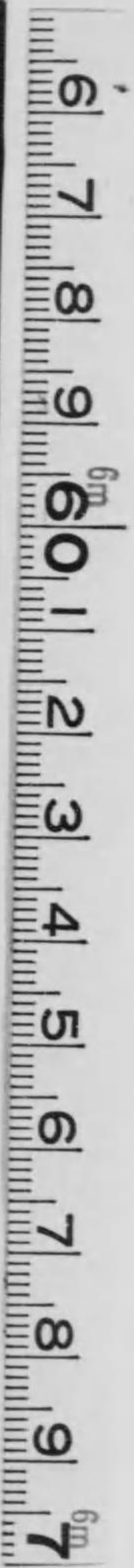


276
299

男女教員の疾患



始



男女教員の疾患

276-299

男女教員の疾患

プロフェッソール、ドクトル、ロイプツセル氏著

岡山縣學校衛生主事

進藤斧吉

大正 2
5. 2
内交

抑も教職なるものは努力を要すべき職ではあるが然し一般に健康上危険なるものは思はれない、（原書の強度の使用を除きては他に何等身體的仕事の上に於て特別の要求をしない、教職に因て起る所の障碍なるものは持）續する所の精神的労働の範囲に在るのである、教へを授け與へると云ふ事は一日中多數の時間の間強度の精神的緊張を而して又注意を要するのである、教授の分與其れ自身の障害はむしろ僅少であつて他の原因によつて教授作用と云ふものを有害に作用せしむるものと認めねばならぬそれは確に教授時間數及兒童が問題となる、教授時間數は害なき爲めには一定の限度を越えてはならぬ、一般に吾人は一人の教師の担当すべき教授時間數の最大限度として一週三十時間を認めねばならない。

學童の疲労問題に就きては數多の業績が發表されて居るに拘はらず種々なる教授の對象となるものが如何なる方法に於て教師の精神的作業能力に作用するかと云ふ問題に就きては未だ一つの精密なる調査が行はれて居ない。

ウイツヒマン氏に従へば國民學校教授に於て最も疲労する所の學科としては算術教授、次に書字教授があげられてある吾人の確信する所によれば前二者の他に亦特に獨逸語の教授就中會話の練習は特段に努力を要する學科としてあげられてある。

教授時間數及教授學科の種類の他に生徒數が主要なる問題となる、生徒の數が多ければ多き程それ丈益々教師は疲勞する、従つて生徒の監督管理が困難となり而して又教師の精神的の要求と云ふものが益々大となる吾人の國民學校に於ける生徒數は一般に一學級に於て非常に多數である、其最大限度としては一學級に付五十人の生徒數を認むべきである、吾人は然し亦大都會或は多數の都會に於て屢々生徒の數六十、七十、而して尙それ以上を見るのである。

生徒の種類と云ふものが亦主要なる問題とせられねばならぬ。

家庭の監督が學校教育の補足をなす所の善良なる部落より通學する所の生徒は此の両親教育の大切なる動機に充分にあらぬか又は全然なき所の部落より通學せる生徒に比して其監督指導がより容易のである。

生徒の或種のもは教師の精神的作業能力に於て勿論尙より高度なる要求をなすのである、補助學校の學級に於ては多數の生徒は彼等の精神的劣等の爲めに監督は全く特別に困難である、吾人はそれ故に一補助學校の生徒數は二十人乃至二十四人を超過してはならぬと云ふ事を又實に要求するのである、學童の年齢及其性が亦一定の影響を及ぼす、最初の年度は實に最も困難を感じるのである兒童が成長するに従つて教訓の保持は益々より容易となる、然し亦最も終りの學年に於て次なる事の爲めに特別に困難を感じるのである、其ことは兒童の發育時期に於て生徒の重要な性格の變化が自ら著明となりこれが教師に對して教訓の保持をして困難ならしむる所以であると云ふ事である、男兒は少年と成年との間の年齢に、女兒は所謂御轉婆娘の時期に於て見るのである。

國民學校に於ては上述せる理由に従つて第一學年、第二學年、稍高き學校に於ては第三級の下級、第二級の下級が上に述べたる方針に於て最も困難なるものとして認められねばならぬ。

校舎の位置及其構造が亦同じく教授の分與に對して困難ならしむる原因となり得るのである、大都會に於て交通頻繁なる街路の傍に在る學校は市街鉄道、電車、等の雜音に富める響、又眼の廻る如き自動車音の爲めに又校舎の近傍に工場、宿屋、料理店、屠殺場等がある時には種々なるいむべき雜音の爲めに教授は一層困難となる

學童の健康を不良ならしむる原因の一つである建物及室の不完全なる点は同じく教師にも亦健康上危險となる、學校に於ける塵芥、不良なる光線、暖室裝置の缺乏、換氣の缺乏は學童に不良に作用すると同様に教師にも亦不良に作用するのである。

教訓の保持は就中克己と教師の側の忍耐を要する。

教師の活動は學校の教授だけで終りを告げない、教授がすむと部落の者が種々相談に来る、協議が始まる又は生徒の練習帳の校正、或は翌日の教授に對する準備等は相當に時間を要する、健康上に關して屢々甚だ不良に作用する所の原因としては副業である殊に個人教授の分與亦補習學校教授が認められねばならぬ、又其他教會堂禮拜の如き行爲は切角の日曜日の休養の期間を短縮するのである、最後に又個人の其他の補習教育を考へねばならぬこの事は吾人の國民學校教師の死せる場合に際會しては確に雲烟過眼視してはならぬ事である。

女教師の副業に就きてウイヒマン氏は或る統計を示した、それによれば二百二十八人の健康なる女教員中八十七人即ち三八、一%だけ副業を有せし事を証明した、又五百四十九人の病める女教員中にて二百七十一人即ち四九、三%だけ副業を有せし事を証明した、其副業としては藝術の應用、家計の行爲、協會、著作の活動、と而して音樂の副業は最も著明に大部分を占めて居た。

教師の物質上の地位も亦時としては病原として關係してあらねばならぬ、最近に於ては教師の俸給が到る處著しく増俸せられたからして今は此の關係は以前に比して左程ではない、それは常に一個の大家族を保持し得られし又子供の病氣、或は健康障害に直接又は間接の誘因を除去する爲めに兒童の轉地療養を行ふ必要に對して注意を拂ひ得るのである。

精神的緊張及興奮の他に教師に對して又教授の時間中持續する所の高聲の談話は有害となりそして又造聲器の病氣を誘起し得るのである、多數の生徒を有する大なる級は又従つて不良なる原因となる。

教師の生命に就きては多數の統計的陳述がある。

生命保險會社の死亡表は一般に教員社會に對して好都合を示す、獨逸の個々の國家よりの報告されたる數は正しく種々なる價を現はす、それ故にゴールドマン氏はザクセンにては一八八八年より一八九七年迄國民學校教師の平均生命は五四、八年を算する事を引用した、其際殊に二十年より三十年迄及亦尙三十年より四十年迄は死亡率は男子住民のそれよりも尙高くありし事を示した、次に四十年以上の年齢となりたる教師は然し他の住民のそれより尙よき%關係を有せし事を示した、主として不良なる數はプロイセンの統計が示す處である、其報告に依れば只國民學校の教師の一三一・五%のみが五〇―五三年に達すると云ふ事である、其平均年齢は三七、年を算す、大學教育に従事せる教師に關しては平均生命は五十年と報告せらる、獨逸國家の一定數に於ては個々の年齢は五十年前後を動搖してをる。

此の教員團の疾病頻度に就きてはウイヒマン氏は一九〇八年ドレスデンに於て學校健康看護に關する獨逸協會の集會の席上にて次なる事を報告した、それは

ヘッセン大公國の一定の就職者なる上級教員の二八一人中にて病氣の爲めに八、二%だけ歸休せしめねばならぬ事。

プラインシュワイヒ大公國に於ては一三〇人の上級教員中にて只四人即ち三三%だけ健康であつた事、アンハルトにては六五人の上級教員中にて同様に只三三%健康であつた、又ブレイメンにては六六人中にて只二七%健康であつた事である。

教員社會の最も重なる疾病は神經疾患及呼吸器疾患である、神經疾患の中に器質的疾患は重要ではない、而して他の大學の職員の場合に於けるが如く左様に屢々はこない、反之官能的疾患なる神經衰弱は甚だ屢々來る其症候は之れを簡單に云へば頭重、頭痛、不眠、思考力集中の困難、而して持續する所の精神的作用不能、屢々苦悶感として又他の不定の障害が存在する、其際外的刺戟に對して高まりたる精神的感覺性が存在する、客觀性は惱まされる、神經衰弱症の教師は其同僚に對し其生徒に對し不正となる好意的の注意が敬意と思はる、かゝる教

師は自ら其職を放擲せんと感ずる、それ故に容易に上官と又は生徒の両親と爭論を始める、其疾患の初期に於ては屢々其疾病の了解を缺いてゐる、其後になれば疾患の増悪に際して屢々憂鬱的に而して沈鬱的の状態が起る。

精神病は教師には特別に屢々あらぬ、若し此の病氣が現はるゝ時には多くは或る遺傳性精神病理的素因が存在してゐるのである、教師に於ける神經的障害の出現の頻度に就きての入り込みたる調査はウイヒマン氏が行ふた、たとへ獨逸國の男女教員に於ける結果の原因に關する同氏の發表したる數字は異議のなき事はないけれども然し次なる事は其調査したる數字より多數に起り來ることである、それは特別に師範學校に於ける仕事と教師になつて最初の五ヶ年間は神經性疾患の成立に對して最も危險であると云ふ事である、三〇五人の教師の中に二

三〇人は神經性及神經衰弱性病苦に就きて訴へるのである、同氏は特に遺傳的素因を原因として証明した。教師に於て其他屢々かゝる所の疾病群は呼吸器の疾患である、それはこゝには主として上氣道の疾患である、長時間持續する所の談話の爲めに強度の深呼吸が營まれる、又持續する所の高聲の談話の爲めに喉頭の過度の努力或は聲帶の過度の努力を要するのである、夫れ故に教師に於ては甚だ屢々鼻、咽頭、喉頭、氣管の加苔兒が起る、此のものは保護を加へる時には治癒するが然し再び誘因が來る時には更に發病し而して後には慢性の疾患状態となる、氣道の蒙る所の障害は吸入さるゝ空氣が不强であればある程又塵芥、煤煙、及細菌が其中に多くあればある程益々非常に高度に害せられるのである、亦談話の種類が著明なる影響を與へるのである、殊に餘り高聲の談話及興奮したる談話がそれである。

結核は吾人が主張したる如く一種の教師病ではない此の病氣は教師と同様なる他の職業地位にある者にも來るので教師が其者に比してより屢々罹患すると云ふことではない、此の病氣は傳染性であり而して生徒をして非常に危険ならしむるが故に毎常教師に於ける此の病氣は丁度特段の注意を拂ふのでそれで殊更眼だつて見ゆるのである、結核菌含有の喀痰を保持し而して自然教室に於て多く談話せねばならぬ所の結核性の教師は其談話の際唾液の泡沫と共に結核菌を教室内に飛散する、而して之れが爲めに生徒に傳染の機會を與へ得るのである、教師に

於ける肺及喉頭結核の出現の頻度に就きてはスミッド氏がデユセル村より一、二の報告をなした。其報告によれば二五〇人の早期に発見されたる結核の中にて一三%は男教員、而して二三%は女教員であつた、又オツベルン縣よりは次なる事が報告された。

それは、五〇七五人の男教員、及四〇九人の女教員の中にて八六人の男教員及四人の女教員は結核性であつたと(一九〇三年一月一日より一九〇七年三月二十二日迄の時に於けるもの)

其他の疾患の中にては近視眼が考へられねばならぬ此のものは大學教育に従事せる教師に甚だ屢々見るのである、で此のものは通常既に學生時代に研究中出来たものである。

亦急性傳染病なる麻疹、猩紅熱、百日咳等の如きものに關しては假令教師には傳染の危険は大ではないけれども尙罹患する者があると云ふ事である、一般以上のものは小兒疾患で、此等の病氣は男女教員の既に若年に於て罹つた事のあるものである、而して此等の病氣に一回罹つて耐へ凌ぎ得たならば其再來に對して防禦し得る、成人の身體は上記の疾患に對して大なる感受性を有せぬのである。

女教員の疾患では又屢々出現するものは神經性疾患を觀察せられねばならぬ、之れと同様に屢々氣道の疾患である、恐らくは然し男教員のそれ等に比し少しく少數であらう。

それらに對して下腹臓器に關係する所の疾患が殊に月經閉止期に際して屢々神經性疾患と結合して來る、又次なる事が考へられねばならぬ、それは甚だ多數の處女にては發育期間中其早期に於て生殖器の側の障害殊に月經時選ける様に望む、此の要求には立業である女教員は從ふ事は出來ぬ、教授と云ふ事は多くは立ちながら又はあちこちら徘徊しながら行はれる、而して此の事は婦人の身體は恰度其月經時には堪へられぬので其結果として疼痛の増加、又下腹臓器の加答兒、及變位の現はるゝことは蓋し稀でない。

第 壹 表
疾 患 の 數

年 度	男 教 員			女 教 員		
	教員總數	歸 休 者 數	教員數=對スル百分比	教員總數	歸 休 者 數	教員數=對スル百分比
1902/03	2834	683	22.99	1529	523	34.21
1903/04	2930	527	17.98	1532	526	34.33
1904/05	3134	760	24.15	1631	756	46.38
1906	1451	615	42.38	112	93	83.03
1907	1459	730	50.03	127	89	70.07

尙一段と注意を要すべきことは月經閉止期中婦人の身體に對して保護と安靜である、かりそめにも此の事柄が許され得なれば其の時には屢々重症なる神經性障害が起るのである、統計の示す所によれば男教員の疾患に比し女教員のそれはより多數である、殊にチールス氏は此問題を入り込んで論じた、同氏は都市の一定數より次にかゝるものはベルリオン及ライプツヒの統計的陳述を示したのであつて此のものは他の所に於て得たものと大畧一致して居る。

第 二 式 表
疾 病 日 數

年 號	男 教 員			女 教 員		
	教員總數	歸 休 日 數	教員一人ニ付キテノ日時	教員總數	歸 休 日 數	教員一人ニ付キテノ日時
1902/03	2884	21422	7.43	1529	22026	14.41
1903/04	2930	18017	6.15	1532	20645	13.48
1904/05	3134	22595	7.21	1631	29905	18.34
1906	1451	9308	6.4	112	1977	17.05
1907	1459	9501	6.5	127	1758	13.84

以上の表により女教員に於ける疾患数が男教員のそれより非常に多く實に男教員のそれに比し屢々二倍を算する程著名である、個々の教員に關して算せられたる疾病持續日數も亦女教員に於ては著しく不良でそして男教員のそれを又著しく凌駕する、今もし生命と在職年齢とに就きて觀察するならば四十才より五十才に至る女教員の年をとりたる年代の者が特に著明の疾患数を証明すると云ふ事である、チールス氏は同氏の觀察によつて女教員に對する仕事の日程が軽減され而して只男教員の仕事の約三分の二とすべきことを希望した。

女教員に對して不良に作用する所の衛生的原因としては時々獨身と云ふ事が觀察されねばならぬ、試験及第後村又は小都會に轉住する所のうら若き女教員は適當なる僚友と交際がない、御互に話し合ふ事もなく、又家族的

家庭生活も營まないといふ素因のある人は神經性疾患の發生に關して不良の影響を與へ得るのである。

教師疾患に對して抵抗するには先づ第一に豫防的規則を守るに在る、教授衛生なるものは大多數の基礎健固なる衛生的の要求を樹立した、此の要求を遵奉せば只に生徒のみならず教師にも亦非常に好都合である、教授時間の適當なる繼續正常なる長さ決して短縮されざる休憩酷暑時の教授の休業、は教師の健康に對して極めて大切である、亦午後教授廢止の人口に膾炙せる問題、及午前に於ける教授の繰合、は教師の健康に對して極めて重要である、午後教授の停止の爲めに散歩、園庭作業の如き戶外に於て運動すべき時を得るのである、特別の經驗よりして午前のみの教授の利益を知つた所の教育社會は一般に常に健康上に關して非常に價値あるものと認めて居るのである。

或る大切なる要求として生徒數の制限が多くとも一學級に付き五十人と示されしこれを確定せられねばならぬ多數學級の學校の詰め過ぎの場合には組合學級に於ける適當なる編制を企てねばならぬ、各教師の擔當する所の教授時間數も亦決して過大であつてはならぬそして年齢に相當して減少せられねばならぬ。

校舎の健康に適せる構造、及其設備は大なる意義を有するのである、特に教室、廊下、及階段に於ける充分なる清潔、善良なる換氣、及完全なる採光裝置に就きて注意せらるべきである、教師が呼吸する所の空氣が清淨であればあるだけそれ丈益々一般に呼吸器の加答兒が減少される、如何にせば單純なる方法で塵芥發生を減少し能ふかと云ふ事は所謂塵芥巻き油の應用の時に指示した、學校教室の度々の清潔法に就きては其際同時に記載されねばならぬ。

特に重要な事は田舎の校舎の建築に際して屢々見る如く教員住宅を校舎と合せて設置せねばならぬ、教員住宅は充分に大なる而して多數の乾燥したる又採光のよき室があらねばならぬ、此の事に關する精細なる事はここには云はぬ、只教員住宅の通路は校舎と全然隔離してあらねばならぬと云事を特記せねばならぬ、教員住宅と教室に通ずるに共同通路である場合には生徒の種々の疾病が教師の家族に傳染し得るのである、尙これより惡しき

事は教師の家族の疾病が學校兒童に傳染する場合である、教師の家族に若し萬一急性傳染病が発生したならば其時には斷然學校閉鎖の必要がある、便所に關しては次なる事が注意されべきである、それは教師及生徒に對するものは各分離の必要がある、即ち教師の便所の使用が生徒から見えない様にすることである。

疾病の發生を豫防すべき主なる原因は教師は教師を志願する人の選抜に在る、此の事は決して試験及第後教師に就く時始めて行はずして既に教員養成所に入學する際最も嚴格に、最も精細に行はねばならぬ、青年男女が教師を志すに當りて彼等が教師に愉快と愛を所持すること及必要なる智的能力を有することのみで満足せずして彼等が遺傳的に神經疾患と結核の素質をもたぬと云ふ事而して無病息災の身体である事を証明するのが殊に必要である、師範學校入學に際して確實なる校醫によりて根本的に而して一々精細なる身体検査が必要である、家族に關する願慮、志願者自身の熱望に關する願慮等が此の検査の際決して校醫の斷定に影響してはならぬ、これと同様な精細なる身体検査が教師の任命前行はねばならぬ。

神經疾患の成立に對する主原因として教員養成所の教授計劃と云ふものが示された、而して健康に適したる様に改造されん事の希望が高唱された、教員養成所に於て負擔過重が主な原因となる事、そして身体的練習及身体の看護に關する充分なる注意が拂はれなんだ事が明らかとなつた。

エンドリス校長は例へば師範學校に於て毎日二—四時間も仕事の時を要することを引用しドリエス嬢は女子師範學校に於て身体的練習に關する講話がないと云ふ事を特に同氏の講演に話した。

合理的の健康に適したる生活法は疾患に對して教師に有効なる防禦法となる、此の生活方法を講せん爲めには衛生學の智識が有意義である。

諸種の身体的練習方法、強練方法、戶外に於ける諸種の運動は神經性疾患及感冒に對して特に價值ある豫防手段である。

アルコホールの亂用と恐らくは又喫煙が教師に有害でそして避くべきであると云ふ事は今更特に云ふ必要が

ない。

教授に際して教師は言葉の種類に注意せねばならぬ非常に高聲の談話は聲帯を努力させる、それ故に會話及書字教授の間に適當なる變化を與へられねばならぬ。

もし教師が罹患せる時には云ふ迄もなく一船治療醫學の方針に従つて充分療養されねばならぬ、其教師は醫師につかねばならぬとして決して自分にて反對の治療方法を講じてはならぬ、此の心配はあながち教師に對して無用でない、教師には屢々自然治療協會にて行はる、疑はじき健康宣傳の通俗書籍と講演より得たる智識が先入主となるからである、頂度神經疾患は適切なる状態と適當なる療法によりて其初期に於て屢々治療し得るのである、然るに反對に批評眼なき所謂自然療法なる水、蒸氣、經絡、体操、マッサージとを以てして其他同様なる治療處置の批評眼なき應用は既に多數の疾患をして治癒し難きものならしむるのである。(終り)

白き水鳥の惱み

思ひあまりて春の宵
なごさの水に微笑めば
そこはかとなく消えて行く
の影にうれひあり

とりては捨つる胸の中
さげむもあはぬ海の涯
その遠に通ふむらさきの
片帆に戀のやどるらむ

深き想のかほらねど
涙しに泣けるその鳥の
老い且つ朽ちんその前に
彼の鳥の名をば思はずや

お か や ま な か は ら

大正十一年四月二十三日印刷
大正十一年四月二十五日發行

編輯兼發行人 岡山市上出石町三十一番地 渡邊賴母

印刷者 岡山市船頭町三十七番地 安井吉

印刷所 岡山市西中山下百五十四番地 山陽新報社印刷部

276

299

終

